

## 死への準備は準備の行動

(年取るといふこと CL 日誌 2008/01/26 から)


CL 教育研究会 遠間美保子 amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



いつ死んでも普通な、それなりに人生期間を経た年周りになった。「CL生活は死への準備」とレイノルズ先生が言われるように、「死への準備」は、葬儀をどうするか、遺言作成に留まらず、うまく自分を使いきれよう、たくさんの目的をうまく達成し続ける建設的な行動が「死への準備」そのものと言える。目的を変化する現状にそって、うまく俊敏に達成するには、準備の行動は有効と経験上納得している。

特別たいしたことではない。ボタンが取れたときにすぐ付けられるよう、白糸と黒糸は針に通しておく。雑巾は多めに縫っておく。問合せ先にすぐに資料が送れるよう切手の買い置き、支度時間を短くするために着た服、履いた靴その都度の手入れ、朝食後の片付け中にコンピューターのスイッチを入れて立ち上げておく、芽が出て間もない雑草とり…と準備の行動は時間づくりにもなる。

今朝、CLインストラクターの一人にCL図書を送ろうと、まず印刷してあった宛名ラベルと年末に買いおいた130円と80円切手を封筒に張り、簡単なメモを本にはさんで封筒に入れて、のりで封を閉じ、後はポストに入れるだけの手際良さに自己満足したとたん、宛名の職名：総看護師長を見て、メモには看護婦長と書いてしまったことに気づいた。間違ったら訂正する。すでに切手の貼ってあるきれいに出来上がった封筒を生かすには…と封を切って、中身を出し、メモを換えて、のりで封の切り口を貼り合わせる。なんとか出せる形にはなったが、手に糊は付くし、貼った切り口が汚らしい。どんなに準備の行動をしても失敗はつきものだから、こんなこともある。ともかく郵便屋さんのおかげで、目的である中身は友人に届くだろう。失敗がつきものの準備の行動をしながら死を迎えられたら有り難いこと。(千葉県市川市インストラクター)

 [目次へ戻る](#)